

新情報システム学体系化研究・第5回講演会の開催報告

2015年 3月 23日

新情報システム学体系調査研究委員会 伊藤重隆

- ◆日時 : 2015年 3月 4日 (月) 18:30~20:30
- ◆場所 : 専修大学神田校舎 7号館 784教室
- ◆テーマ : 「創造社会のシステムとメディア」
- ◆講師 : 慶應義塾大学 総合政策学部准教授 井庭 崇 (いば たかし) 氏
- ◆参加者 : 14名
- ◆講演概要 :

○次の構成プログラムにて、講師の井庭 崇様よりご講演いただいた。

1. 創造社会
2. 社会システム理論／創造システム理論
3. パターン・ランゲージ
4. フューチャー・ランゲージ

○創造社会

・創造社会とは、人々が自分たちで自分たちのモノや仕組みなどをつくる社会を指す。

C (Consumption) : 消費社会⇒C (Communication) : コミュニケーション社会⇒C (Creation) : 創造社会へと変化してゆくことを目指している。

今はモノを選んで買う社会だが、20年後にはそれが自分で創る社会、創造的な社会に変わる。例えば、ITでオープンソース時代になったように食物、洋服、家をつくる社会になる。

○社会システム理論／創造システム理論

・ニクラス・ルーマンの社会システム理論はコミュニケーションを要素としたオートポイエティックシステムであるが、このルーマンの「社会システム理論」をベースに井庭氏が「創造システム理論」について提唱しており、以下のような違いがある。

社会システム : コラボレーション = コミュニケーション × 思考 (ニクラス・ルーマン)

創造システム : コラボレーション = 創造 × コミュニケーション × 思考 (井庭氏)

・コミュニケーションは人間主体で行うが、単なる伝達行為ではない。

相手側が内容 (情報) と意図 (伝達) が理解されたときに創発する出来事になる。

・創造システムを実現するには3つの不確実性を認識しそれをクリアして創発が行われる。

- ① 他者理解の不確実性 (言語、広い意味で芸術も)、
- ② 到達の不確実性 (伝達メディア、近い人だけでなく遠く広く)
- ③ コミュニケーション成果の不確実性 (象徴的に一般化されたコミュニケーションメディア、貨幣、愛、宗教など)

○創造システム理論

・創造とは発見が連鎖してゆくことであり、アイデア（情報）→関連付け（伝達）→見出す（理解）が連鎖して起こることである。

発見の連鎖により創造が起こることを示す。

Discovery → Discovery ○ →Discovery × →Discovery ○
→ Discovery ○ →Discovery ○
→ Discovery ×

上記のように一旦、価値が消えても新たに発見につながる場合もある。

・従来の社会のシステムと思考のシステムに対して創造のシステムを明確に切り出したものである。

創造の要素は発見の連鎖であり、創造の記録（5W2H、時系列、分類別等）を録ることが重要である。創造には一人、グループ、大規模コラボレーション（例：ワールドカフェ）などの連鎖が考えられる。

○パターン・ランゲージについて

・パターンランゲージとは、何かをつくるとき／実践するときの「状況に応じた判断」のセンスを共有し活用する方法である。そして、その分野に蓄積された経験や知識から成功に潜む共通パターンを言語化し活用することである。

（例えば、組織や集団において、新人や異動者にその業務や活動内容が分からないときにそれを分かる様にする。）

・各「パターン」には問題発見、問題解決の実践知が記述される。「Problem → (Jump) →Action、Solution」を示すことである。

どんな状況のときに (Context)、どんな問題が生じ (Problem)、どのように解決すればよいか (Solution) を導くツールである。例えば、ソフトウェアでは設計知、建築では質とも呼ばれている。

・パターン・ランゲージは次のように構成される。

★個々のパターンは小さな単位にまとめられる。

★パターンは相互に関係し合い、一つの言語体系を形成する。

・パターン・ランゲージは生き活きとした「質」を生み出すことを支援する。

（・あのプロジェクトのあの感じ、・あの飲み会のあの感じ・・・すごかったなあ、よかったなあ、を顕す）

・コラボレーション・パターンの34個の秘訣について紹介された。

例：つくり方をつくる、共感のチームづくり、アイデアを形に、・・・、インサイドイノベーター、活動の足跡）

◆説明資料

情報システム学会体系化研究第5回講演資料 (別途、掲載を予定)

◆問合せ先

<新情報システム学体系調査研究委員会事務局：渋谷照夫>

e-mail: shibu_t4771■kym.biglobe.ne.jp (■を@に置き換えてご使用ください。)

以上